



平成 22 年 5 月 14 日

各 位

会社名 日本水産株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 垣添直也
コード番号 1332
問合せ先 総務部長 竹内 康訓
(TEL. 03-3244-7181)

業績予想の修正等に関するお知らせ

平成 21 年 11 月 12 日に公表した平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想における予想値と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期の連結業績予想数値と実績値との差異

（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（連結）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	480,000	8,500	7,000	2,000	7円24銭
実績値 (B)	481,574	6,227	6,174	44	0円16銭
差額 (B-A)	1,574	△2,272	△825	△1,955	—
差額率 (%)	0.3%	△26.7%	△11.8%	△97.8%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	505,250	3,156	△1,222	△16,239	△58円74銭

（個別）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	310,000	2,500	2,800	2,000	7円23銭
実績値 (B)	306,862	1,156	2,102	△2,411	—
差額 (B-A)	△3,137	△1,343	△697	△4,411	—
差額率 (%)	△1.0%	△53.7%	△24.9%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	324,284	△1,175	△764	△3,038	△10円99銭

2. 差異の理由

個別業績につきましては、主に水産事業において長引く消費低迷の影響を受け、鮭鱒の高付加価値商品の販売数量が減少し、すりみやその他の魚種で販売価格の下落がありました。特別損失では、ニッスイインドネシア社に対する多額の関係会社株式評価損などを計上しましたので、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は前回予想を下回りました。

連結業績につきましては、個別業績が前回予想を下回ったことに加え、アルゼンチンの漁撈会社およびニッスイインドネシア社の不振が続き、特別損失においても固定資産処分損に加え、ニッスイインドネシア社の固定資産減損損失などを計上いたしましたので、営業利益、経常利益、当期純利益は前回予想を下回りました。

以 上